

ご教示願います！ SDGsの取り組み方

Vol.18

2023年現在、新型コロナウイルス感染症拡大に相まったIoTや5Gの普及加速、LED照明に代表される省エネについての提案営業、脱炭素社会の実現（カーボンニュートラル）、太陽光発電、蓄電池などエネルギー分野の発展、建築業界における働き方改革など、私達、電材業界が取り組まなければならない社会的・環境的貢献課題は、まさにSDGsの課題そのものです。

しかしながら、「SDGsに取り組みたいが、どのようにして進めていけばよいか分からない」という声を多く頂いた事から、すでにSDGsに取り組まれている会社様へ緊急取材をお願いし、SDGsとは何なのか、取り組み事のメリットなどをお伺いし、組合員会社様のSDGs取り組み会社増へと繋げる記事を連載致します。

第18回目の今回は、山陰単組所属の山陰パナソニック株式会社様を訪問し、渡部幸太郎代表取締役社長にお話を伺いました。



電材卸という仕事を再定義 するためにSDGsを活用する

世の中の幸せの力になっていく

事務局 素敵なTシャツですね。

渡部社長 ありがとうございます。実は、このTシャツ（上画像より）のデザインは、障がい者の方が描いたアートを元にしています。

以前、隠岐島の障がい者施設で働く方からお手紙を頂き、障がい者の方に何か貢献出来ないかと探っていた所、実際に障がい者アートを手掛けているアーティストの方と出会いました。話を聞くと、障がい者の方は、施設内の生活で絵を描く事があるということでした。そこで、その絵を活用したものの販売は出来ないか模索していました。

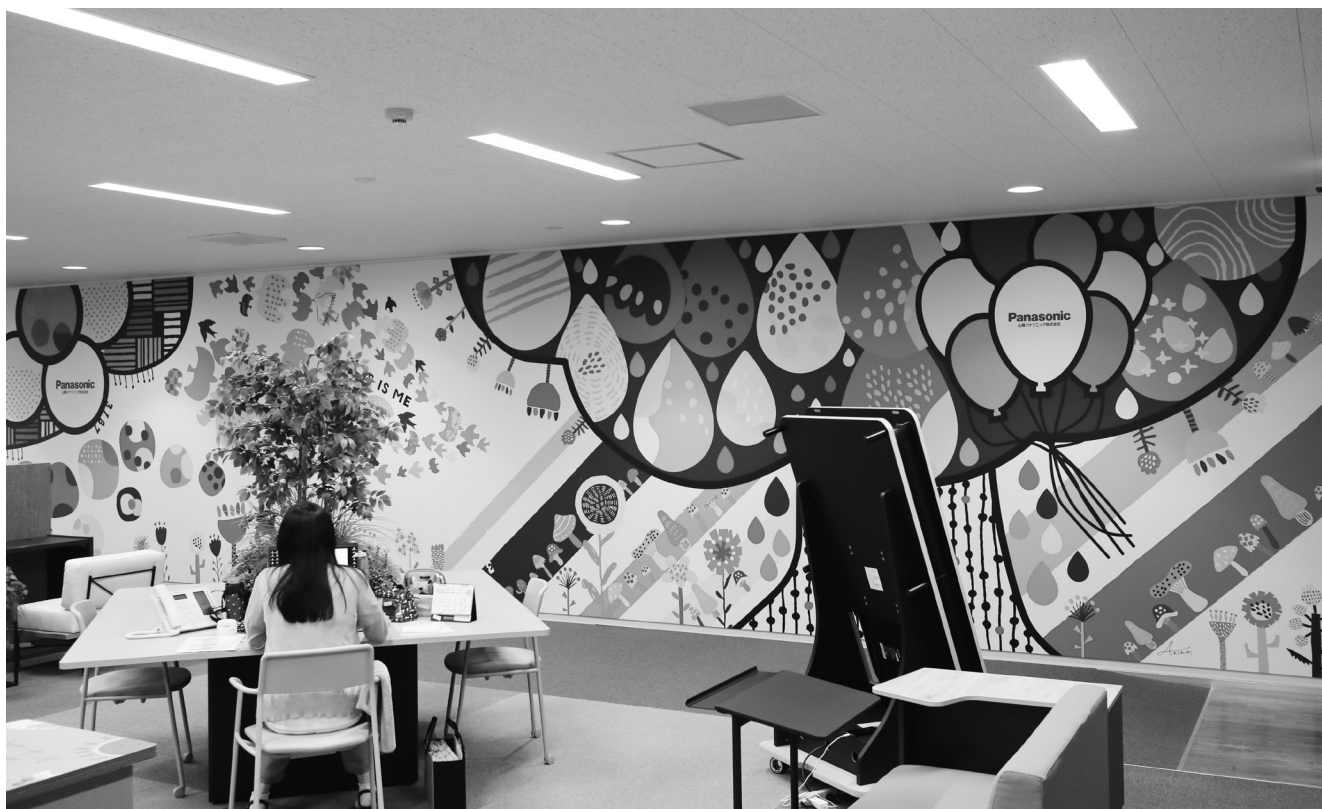
ただ、障がい者の方の絵をそのまま使うのは難しいため、地元のクリエイター

に協力頂き、合作したことで、デザインにさらに磨きをかけて販売する事が出来ます。その売上を障がい者の方の給与にしていこうという取り組みにたどり着きました。

現在は、このようなTシャツや名刺封筒、オフィスの壁面デザインや企業パンフレットに採用し、営業車のカーラップングも検討している所です。

私達は、「障がい者アート」を、「対等な仲間」という意味で「バディーアート」と呼んでいます。この「バディーアート」をどんどん活用して、世の中に広めていく活動をしています。

デザイナーについては、私が経営しているグループ会社に地域の情報サイトを運営している会社があり、そこを通じて知り合ったり、その繋がりから、山陰の



本社内の壁に、障がい者の方とデザイナー合作のバディーアートを使用しています。

デザイン協会のメンバーが手伝ってくれたりもして、地域の方々と一緒に作った社会貢献活動になっています。

また、30年程メインスポンサーを務めている「出雲くにびきマラソン」という市民マラソンがあるのですが、そのコンセプトを切り替えていこうという案が出ています。そこで、ゼッケンやパンフレット、ポスター、折り返し地点のコーンやコースの至る所に、バディーアートを用いて、ランナー達が楽しんで走れる大会にしようと考えています。そうすれば、障がい者の方々が応援に出てきたり、全国の福祉関係者も視察に訪れると思います。参加者も増えてくるでしょうから、大会のコンセプトをしっかりと全国に発信し、新しいマラソン大会に出来ればと計画しています。

「誰一人取り残さない社会を目指すSDGs」の中で、弊社が今、一番代表格に位置付けている取り組みです。

以前参加した研修で、SDGsは別に新しく取り組む必要はなく、普段やっている事を当てはめたら良いと伺いました。実際、私達も太陽光パネル設置や省エネ商材等を普及させており、そのこと

自体がSDGsだと言えますが、山陰パナソニックとして発信していくSDGsはそうではなく、世の中の人達の幸せの力になっていこうという理念の下で活動しています。

事務局 素晴らしい取り組みだと思います。ありがとうございます。では、色々伺わせて頂きますが、HPを拝見して気になったのが、スポーツ協定についてです。どういったものなのか詳細をご教示頂けないでしょうか。

渡部社長 スポーツ協定は、松江市、出雲市、米子市の山陰3市と提携しており、次の3つを具体的な内容としています。

1つ目は、パナソニックの企業スポーツ活動に、ラグビー、バレーボール、野球、女子駅伝等があり、アスリートが沢山いますので、山陰に来て頂き、子ども達への技術指導や指導者の育成に取り組んでもらっています。2030年に島根国体、2033年には鳥取国体が開催予定ですから、国体に向けての選手育成、指導者育成にも携わって頂いています。

年間何人ものアスリートが山陰に訪れますので、前泊で来て頂いた時は、地

元の指導者の方々を集めて、一緒に食事をしています。その際、技術指導について情報交換できますし、指導者の方々は高校教師でもあるため、弊社としてもリクルートに繋がるというメリットがあります。

2つ目は、行政の観光PRに寄与するという意味で、ラグビーやバレーボールの公式戦を山陰の施設で行い、市長の始球式や観光PRを行うブースを設置するなどして地元へ貢献しています。

3つ目が、行政のスポーツ施設運営の提案や設備機器のアドバイザー、導入の提案です。

元々、地域から「パナソニックの選手を呼んで、スポーツ教室をしてもらえないか」と要請を受けていました。私自身、中学時代は柔道、高校時代はラグビーを経験した体育会系の人間ですから、スポーツの持つ大きな力は理解していましたが、パナソニックのラグビー選手を呼んだ時、地元の子ども達は私が思った以上に喜んでくれました。これだけ喜んでくれる、幸せの力になれるのならばと、その後はバレーボールや野球、陸上の選手も呼んでいます。

企業の社会貢献活動に関しては、山陰パナソニックだからこそ成し得る貢献活動を行う事で、企業価値を高めたいと思っています。パナソニックのアスリートを誘致出来るのは、山陰パナソニックでしか出来ない事です。

現代のコミュニケーションツールは、ゴルフでも麻雀でも無く、ゲーム

事務局 話題のeスポーツ部を立ち上げた理由をご教示頂けますか？

渡部社長 これは、私の思いつきで作りました。まず、全ての考え方の根本として、山陰パナソニックは「社員一人一人の個性が輝く職場でありたい」という企業メッセージがあり、これを実現させるための研修「サンパナジャーニー」はツールにして、就活生にも配布しています。(★)
ゲームは、自分も楽しんでいた時代がありましたし、この企業メッセージに基づいて、ゲームを会社でやったら、社員が生き生きするだろうという直感がありました。一般的に「ゲームはオタク」というイメージがあり、娯楽の一つとして見られず、まだ市民権を得ていないと



★「サンパナジャーニー」には、輝き方改革が掲載されています。

思っています。自己紹介をする時に「自分は野球をやっていました」、「留学していました」等は聞きますが、「自分はゲームをやってきました」という人は多くありません。私は、気にせず「ゲームです」と言っただけですし、それは個性であり、熱中することは、何かに繋がるかもしれないと思っています。

ゲーム同士は素性が分かれば、お互いがそういうコンプレックスを持っているが故に、すぐに仲良くなります。ゲームには、人を繋ぐ大きな力があり、一体感も生まれます。

実際に、eスポーツ部を立ち上げると、マニアックなメンバーが集まり、喜んで活動しています。そのメンバーにとっては、社内に仕事とは違う居場所が出来た事によって、会社が好きになりました。より仕事に打ち込めるようになったりと、仕事に対しても良い影響が出てきています。

ある社員は、伸び悩んでいる時期に、会社を辞めたいと漏らしたこともあったのですが、eスポーツ部に入ってから「こんなことを認めてくれる会社なんてないです」と、会社を好きになり、一人では

なく、会社の仲間とゲームが出来ることが何より嬉しく、部活動を終える時の電源を抜く瞬間がとても寂しいと言っていました。それくらい楽しいようで、入部して以降、考え方が前向きになり、あるお取引先の社長様とは、ゲーム繋がりです。非常に親しくなり、大口の注文に繋がったということもありました。

会社や仕事における人と人とのコミュニケーションというと、これまでは飲み会やゴルフ、麻雀等がほとんどでしたが、そこにゲームというカテゴリが生まれただけの話です。ゲームは若い世代の共通言語であり、若い世代ではゴルフよりも圧倒的にゲームの人口が多いです。新入社員であってもゲームを通して相手先の

新入社員と繋がる事が出来、これが特に大きな影響をもたらしてくれました。
事務局 eスポーツがここまで会社に影響を与えるものだとは思いませんでした。

渡部社長 eスポーツの活動に関しては、こちらから一切指示は出しておらず、メンバーが自発的に動いて、様々な方達と繋がり、様々な企画を考えています。最近ですと、町内会の夏祭りでもeスポー

ツ大会をやりたいから、手伝って欲しいという依頼を受けました。元々、夏祭りの会場が室内でしたので、室内の一角を借りて行う予定です。

事務局 新しい夏祭りですね。凄くワクワクします。

渡部社長 eスポーツと言えば、山陰パナソニックというイメージが浸透してきています。学校の先生方が視察に来られたり、どうやって部を立ち上げたいのですか?という企業からの問い合わせも10件以上来ています。

事務局 日経新聞やNHKにもニュースで扱われていたので、影響力は計り知れないと思います。

渡部社長 年に1回、温泉宿を貸し切つて、機材やテレビを持ち込んでの合宿もしています。私も参加しており、部員には若い社員もいますが、気軽にコミュニケーションを取り合っています。

事務局 eスポーツが無かったら、若い社員は社長と気軽にコミュニケーションは普通、取れないと思います。

一方で、他社様から、もし、eスポーツが広まったら仕事に影響出るのはないかという不安の声もあります。

渡部社長 確かにゲームは中毒性があると思いますが、例えばゴルフをさせて、ゴルフばかりに気が取られて、仕事に影響が出ますか?それと同じレベルだと思います。皆、社会人ですから、そもそも自分で制御出来ないような人は、採用してはいけないと思います。

SDGsに取り組んで良かった事は、山陰パナソニックのブランディングという世界観が出来た

事務局 SDGsに取り組んでいない会社様に一言頂けないでしょうか。

渡部社長 絶対に取り組んだ方が良いと思います。取り組んでいない会社様は、取り組む目的が分かっているのかもしれませんが、ありません。

電材卸会社がSDGsに取り組む意義とは、現代の若者達が思う仕事のやりがい、仕事観をしっかりと掴む事だと思っています。

電材商品を運ぶ仕事が何に繋がっているのか、この商品を販売する事で世の中にどういった影響を与えるのか、若者達の心に伝えられれば、やりがいに変わつ

てくると思います。現代の若者達の仕事

観は私達とは全く違いますので、汗をかいて頑張っている事が世の中にどう貢献しているのか、彼らはそこを凄く重視して、それを実感出来ない」と辞めたくなるのだと思います。

だから、電材卸という仕事を再定義する事が大事で、再定義するためにSDGsを活用するべきだと思います。

SDGsに取り組んで良かった事は、山陰パナソニックのブランディングという世界観が出来た事かもしれません。イメージ戦略が出来、そこに社員が携わり、目が輝き始め、楽しく働いてもらえている事だと思えます。「これが私」と言えるものを一人一人が持ち、「こんな私でも良いんだ」と思ってもらえるような一人一人のcolor(カラー)が出る、面白い会社でありたいと思います。

事務局 画像からもその人にしか出せない笑顔が出ているので、心から会社を楽しんでいると感じました。

最後に伺いたのですが、このSDGsについても、各取り組みについてもですが、渡部社長が、「会社で取り組むか」「取り組まないか」を決定する基準ってどうい

う点ですか？

渡部社長 2020年に、10年後の2030年に向けて、「山陰の星になる」というスローガンを掲げました。山陰でNo.1になっていくというアンカーを打ち、ロックオンしたので、逆算して何をすべきかを考え、そのために出来ない事をスピード感持ってやらないといけないと思っています。積み上げ式の経営をやっていると絶対に間に合いませんし、「山陰の星」と呼ばれるという事は、全国区になっていないといけないとも思います。

2030年は山陰の星ですが、2040年は「日本の星」と呼ばれるような会社にまで持っていきたいと思っっています。もしそうなれたら、おそらく、海外にまでビジネスの幅を広げている気がします。

常に10年先を見据えて、10年先はこういう状態にしたいと定めていますので、山陰の星になるために繋がるか繋がらないかで取り組みを選択しています。逆走していると感じたら、勿論、取り組みもない事もあります。

SDGsもそういう意味では、山陰の

星になるための必要な取り組みだと感じたら始めたとも言えます。

山陰パナソニック様から 伺ったSDGsに取り組む ポイント

- 1、就活生に分かりやすく電材卸という会社を説明するために、SDGsを活用して伝える。
- 2、会社の中に労働とは関係ない、居場所(心の拠り所)を作ってあげる事は、社員が長く働いてくれるコツ。



過去の掲載分は、全日電材連ホームページ「SDGsへの取り組み」にて掲載中。

<https://www.jeda.or.jp/sdgs.html>
#sdgsNews

※SDGsに取り組み、取材許可を頂ける会社様がございましたら、全社伺わせて頂きます。全日電材連・事務局・伊達までご連絡下さい。(03-3541-7192)

山陰パナソニック様の
SDGsの取り組みは、
<https://sanin-panasonic.jp/sdgs>

からご確認ください。